

町長に聞きたい!!

～6月定例会での一般質問～

※一般質問とは、町行政をただすため、議員が町長や教育長に対して行う質問のことです。

小玉議員



杉本議員



進藤議員



質問者

質問内容

町長答弁（要旨）

一般質問を終えて
（質問者の感想）

Q2 平成15年に策定された都市計画マスタープランの現状と、今後の取組みは。

Q1 行政区や町内会などの地域自治組織加入に対する町の基本的スタンスは。

A1 自治活動を通じ、互いに理解を深め、隣近所の顔が見えることで、安全・安心な暮らしを共有することが肝要であり、積極的に加入を進めることをスタンスとする。

A2 土地利用の方法や都市施設の整備方針等を定め住みよいまちをつくりあげていくことを目標としている「マスタープラン」は策定より13年経過。現状との整合性が合わない部分もあり、次期町総合計画策定時に合わせた見直しを行う。

質問内容や課題対策への強い意気込みや前向きな姿勢を感じることは出来なかった。

今後は、具体的な提案につなげられるよう継続して状況の把握を行っていききたい。

Q 運転免許証の自主返納者に対して経済的支援をしては。

A 有効期限満了による運転取りやめや、免許を持っていない人との間に差が生じ、公平性に欠ける。

誰もが移動手段として利用できる地域公共交通や高齢者向けの福祉バスの活用から、自動車運転を止める動機としたい。

これまでの政策から、公平性という観点は妥当ではないと感じた。

助成制度の公平性について調査し、矛盾点について指摘していききたい。

Q2 ペンダントタイプの緊急通報システムを積極的にPRしては。

Q1 13名の職員を自衛隊生活体験に派遣した経緯と、得られた成果は。

A1 役場職員として必要な「責任」「規律」「チームワーク」等の心構えを身に付ける最良の研究であると考えた。

成果としては、「健全な社会、組織をつくるために規律を守り、目標に対し集団で意識を統一する」などが、今後の業務に活かされていくものと考えている。

A2 緊急通報システム設置時には、本体とペンダントタイプを併せて設置するよう勧めているが、ペンダントは通話ができないこと、毎月の利用料が増えることから、希望者が少ないのが現状。今後も継続して、ペンダントタイプの併設を勧めていく。

想定を超える前向きな答弁は引き出せなかったが、自衛隊生活体験については、今後も町民の意見を聞きながら継続して取り組んでいきたい。

また、緊急通報システムは、利用者負担の少ない方法を提案していききたい。